

看護教育 第18巻 総目次

1977年1-12号

(分類は第13巻第5号‘特集・文献集録’に準じ、表示は題名：筆者名、号数、ページ数を表す)

教育原論に関するもの

教育思潮 教育——この不可思議なもの(1)：三井為友, 3, 165-169.

教育思潮 教育——この不可思議なもの(2)：三井為友, 4, 242-246.

看護教育原論に関するもの

誌上シンポジウム これからの保健医療教育 報告・

1 医学教育の今日的課題：牛場大蔵, 2, 76-80.

誌上シンポジウム これからの保健医療教育 報告・

2 看護教育の今日的課題：近藤潤子, 2, 81-85.

誌上シンポジウム これからの保健医療教育 討議・保健医療教育の現状と改革への展望 教育学的アプローチを中心として：牛場大蔵・鈴木淳一・近藤潤子・小島操子, 2, 86-102.

日本およびアメリカ合衆国における看護教育制度と教育内容に関する比較検討：三沢啓子, 2, 103-116.

私の発言 開業医における看護教育：浅野全子, 4, 201-204.

私の発言 専門職としての看護教育を考える：天羽崇, 5, 269-273.

第2回四大学看護学研究会研究報告・1 看護高等教育の史的考察：鶴沢陽子, 5, 284-296.

私の発言 看護婦の社会的評価と看護教育：万城ミサキ, 7, 401-404.

看護教育における教育権と公教育：鈴木俊作, 8, 476-484.

私の発言 精神科病院と看護教育：谷岡圭子, 9, 533-537.

海外研究論文抄読 看護教育のために、なぜ概念的構成は必要か：Dorothy E. Reilly, 藤村龍子訳, 9, 573-578.

いま教育現場では・7 看護制度について：岩井陽子, 11, 679-682.

教育学の立場から ゾルレンとザインの関係について：鈴木俊作, 11, 683-684.

看護論・看護婦論・看護制度論

私の発言 死への援助と看護婦に求めるもの：三木福治郎, 1, 1-6.

わたしの看護体験(1) ‘ひと’の限りなき可能性を求めて：駒松仁子, 4, 205-212.

話し合い 方法としての臨床 臨床における体験と学びから：外口玉子・ほか, 4, 213-229.

わたしの看護体験(2) 日本という風土における看護を考える：駒松仁子, 5, 274-282.

私の発言 看護婦の社会的評価と看護教育：万城ミサキ, 7, 401-404.

海外研究論文抄読 看護法と拡大する看護の役割：Bonnie Bullough, 松本光子訳, 8, 485-493.

私の発言 生命の流れの中で：藤腹明子, 10, 593-596.

いま教育現場では・7 看護制度について：岩井陽子, 11, 679-682.

教育学の立場から：鈴木俊作, 11, 683-684.

座談会 看護婦1年目の私 戸惑いの中で考えること：寺田真廣・ほか, 11, 701-714.

対談 保健医療サービスの進展と看護の役割：砂原茂一・近藤潤子, 12, 724-742.

私の病棟日誌・8 パラメディカル：日下隼人, 12, 778-781.

カリキュラム論に関するもの

いま教育現場では・1 カリキュラムについて：岩井陽子, 5, 303-307.

教育学の立場から：鈴木俊作, 5, 307-308.

海外研究論文抄読 役割拡大のためのカリキュラム・モデル：Ruth Ann Zornow, 鈴木和子訳, 11, 670-674.

現状のカリキュラムからみた看護学への提言：長吉孝子, 12, 743-750.

准看護学校・高校衛生看護科に関するもの

私の発言 見たまま感じたまま 准看護学生とのか

かわりの中で：駒松仁子，2，65-69.

看護学校・短大に関するもの

師弟対談 国立大阪病院付属看護学校 その創設と学校の歩み：雪永政枝・山口花江，1，7-20.

師弟対談 被爆の運命に抗して 長崎大学医学部付属看護学校の沿革を語る：松山千代子・河本令子，3，143-156.

1977年4月開校の看護関係学校一覧：6，392.

私の発言 精神科病院と看護教育：谷岡圭子，9，533-537.

看護大学に関するもの

第2回四大学看護学研究会研究報告・1 看護高等教育の史的考察：鶴沢陽子，5，284-296.

第2回四大学看護学研究会研究報告・2 熊本大学教育学部特別教科(看護)教員養成課程の10年を振り返って：山元重光，5，297-302.

第2回四大学看護学研究会研究報告・3 アメリカにおける大学看護教育課程の現状と問題点：小島操子，6，349-354.

第2回四大学看護学研究会研究報告・4 日本と米国における大学看護教育カリキュラムの比較検討：松岡淳夫・ほか，6，355-356.

第2回四大学看護学研究会研究報告・5 大学における看護学教育のカリキュラムに対する希望：吉田時子，7，439-445.

第2回四大学看護学研究会研究報告・6 追加発言・討議，まとめ：7，446-452.

助産婦教育・保健婦教育に関するもの

助産婦学生実習指針：全国国立大学医学部付属助産婦学校教務主任連絡協議会，9，579-586.

私の発言 助産婦の卒後教育を考える：関根龍子，11，657-660.

外国の看護教育に関するもの

日本およびアメリカ合衆国における看護教育制度と教育内容に関する比較検討：三沢啓子，2，103-116.

第2回四大学看護学研究会研究報告・3 アメリカにおける大学看護教育課程の現状と問題点：小島操子，6，349-354.

第2回四大学看護学研究会研究報告・4 日本と米国における大学看護教育カリキュラムの比較検討：松岡淳夫・ほか，6，355-356.

アメリカにおける看護研究者の教育：飯豊紀子，6，367-371.

特別インタビュー キング博士に聞く：アイモジン=M=キング・杉森みど里，10，597-602.

海外研究論文抄読 役割拡大のためのカリキュラム・モデル：Ruth Ann Zornow，鈴木和子訳，11，

670-674.

基礎科目・教養に関するもの

私の病棟日誌・1 生と死のあいだで：日下隼人，1，49-52.

人間と科学との対話 ‘人間であること’の意味：村上陽一郎，1，53-57.

自己自身として生きるために 人間学的断想・7 不毛な思い煩いについて：谷口隆之助，1，58-62.

人間的事象としての死(2)：田村 真，2，70-74.

自己自身として生きるために 人間学的断想・8 引き受けるべき苦悩と不安：谷口隆之助，2，127-131.

人間と科学との対話 人間の一回性：村上陽一郎，2，132-136.

私の病棟日誌・2 ‘反’と‘脱’：日下隼人，3，170-172.

教育研究レポート 看護学総論の教育展開(3)：日本赤十字中央女子短期大学看護学総論研究グループ，3，178-185.

自己自身として生きるために 人間学的断想・9 性と愛と：谷口隆之助，3，193-197.

私の病棟日誌・3 畏れるということ：日下隼人，4，247-249.

人間と科学との対話 身体と自己(1)：市川 浩，4，256-260.

自己自身として生きるために 人間学的断想・10 ‘老い’について：谷口隆之助，4，261-265.

人間と科学との対話 身体と自己(2)：市川 浩，5，327-331.

自己自身として生きるために 人間学的断想・11 ‘死’について：谷口隆之助，5，332-336.

私の病棟日誌・4 対峙する関係：日下隼人，6，372-375.

人間と科学との対話 ひとつの身体論のころもみ(1) ‘身’の諸相：市川 浩，6，387-391.

自己自身として生きるために 人間学的断想・12 生きてあること：谷口隆之助，6，393-397.

人間と科学との対話 ひとつの身体論のころもみ(2) 身の構造：市川 浩，7，459-464.

私の病棟日誌・5 辺境から見る：日下隼人，8，517-520.

私の発言 生命の流れの中で：藤腹明子，10，593-596.

私の病棟日誌・6 等身大として付き合う：日下隼人，10，653-656.

私の病棟日誌・7 立ち竦む：日下隼人，11，715-718.

専門科目に関するもの

私の発言 死への援助と看護婦に求めるもの：三木福治郎，1，1-6.

海外研究論文抄読 看護における心理学の新しいとらえ方: Rosemary A. Crow, 季羽倭文子訳, 1, 35 - 43.

成人看護学各論の授業展開 X. 感覚器——皮膚疾患患者の看護: 高木永子・ほか, 2, 117 - 126.

教育研究レポート 看護総論の教育展開(3): 日本赤十字中央女子短期大学看護学総論研究グループ, 3, 178 - 185.

教育研究レポート 小児看護学——その考え方と組み立て方(1): 高橋俊子, 3, 186 - 192.

看護過程展開の技術: 国立大学医学部付属看護学校教官連絡会関東地区ブロック合同研究, 4, 230 - 241.

私の病棟日誌・3 おそ 畏れるということ: 日下隼人, 4, 247 - 249.

成人看護学各論の授業展開 XI. 感覚器——耳鼻咽喉疾患患者の看護: 高木永子・ほか, 5, 309 - 317.

いま教育現場では・2 看護研究について: 伊藤幸子, 6, 357 - 359.

教育学の立場から: 鈴木俊作, 6, 360 - 361.

成人看護学各論の授業展開 XII. 骨・関節・筋肉疾患患者の看護: 高木永子・ほか, 6, 376 - 386.

私の発言 看護教育と人間の性 臨床実習指導を通して考えたこと: 遠藤恵美子, 8, 469 - 475.

教育研究レポート 小児看護学——その考え方と組み立て方(2): 高橋俊子, 8, 501 - 505.

成人看護学各論の授業展開 XIII. 女性性器疾患患者の看護: 高木永子・ほか, 8, 521 - 529.

座談会 死にゆく患者への援助とその教育 death education へのアプローチ: 酒井 糾・ほか, 9, 548 - 560.

予後不良患者の看護 患児・両親・看護婦の心理反応とその働きかけ: 山崎慶子, 9, 561 - 568.

看護技術演習の1つの試み: 土生都寛子・ほか, 10, 603 - 612.

ワーク・サンプリング法による奈良県立医科大学付属病院病棟看護婦業務の分析: 梁瀬度子・ほか, 10, 618 - 626.

看護学生に対する放射線医学教育の現状: 大竹 久, 10, 633 - 635.

‘基礎的看護技術’教育に関する試論(1): 氏家幸子, 10, 636 - 642.

成人看護学各論の授業展開 XIV. 精神疾患患者の看護: 高木永子・ほか, 10, 643 - 652.

看護と法律——看護業務と医療過誤・その1: 渋谷美春, 11, 661 - 669.

基礎的看護技術教育に関する試論(2): 氏家幸子, 11, 693 - 700.

私の発言 学生と看護計画について: 白松万里子, 12, 721 - 723.

海外研究論文抄読 プライマリー・ナーシングの日

常業務: Marcia Anderson, 神奈川県立看護教育大学校看護教育学科第2回生訳, 12, 751 - 757.

テスト・評価に関するもの

臨床実習における中間評価および自己評価の学習効果について: 東京大学医学部付属看護学校, 3, 157 - 164.

いま教育現場では・4 臨床実習について 教育学の立場から——その評価について: 鈴木俊作, 8, 509 - 510.

臨床実習・臨床指導に関するもの

臨床実習教育の展開と考察 胃疾患患者の手術療法治療看護: 鶴沢陽子・ほか, 1, 21 - 33.

私の発言 臨床実習指導の実際を通じて考えること: 松尾邦江, 3, 137 - 141.

臨床実習における中間評価および自己評価の学習効果について: 東京大学医学部付属看護学校, 3, 157 - 164.

教育研究レポート 看護学総論の教育展開(3): 日本赤十字中央女子短期大学看護学総論研究グループ, 3, 178 - 185.

話し合い 方法としての臨床 臨床における体験と学びから: 外口玉子・ほか, 4, 213 - 229.

看護過程展開の技術: 国立大学医学部付属看護学校教官連絡会関東地区ブロック合同研究, 4, 230 - 241.

私の教育実践レポート 臨床実習の展開とその考察(1): 横山トヨミ, 6, 342 - 348.

いま教育現場では・2 看護研究について: 伊藤幸子, 6, 357 - 359.

教育学の立場から: 鈴木俊作, 6, 360 - 361.

私の教育実践レポート 臨床実習の展開とその考察(2): 横山トヨミ, 7, 405 - 416.

私の発言 看護教育と人間の性 臨床実習指導を通して考えたこと: 遠藤恵美子, 8, 469 - 475.

教育研究レポート 小児看護学——その考え方と組み立て方(2): 高橋俊子, 8, 501 - 505.

いま教育現場では・4 臨床実習について: 伊藤幸子, 8, 506 - 509.

教育学の立場から——その評価について: 鈴木俊作, 8, 509 - 510.

看護学生の臨床実習に対する認識の変容過程と学生・指導者間の認識の関係: 森田チエ子・島内 節, 9, 539 - 547.

座談会 死にゆく患者への援助とその教育 death education へのアプローチ: 酒井 糾・ほか, 9, 548 - 560.

死に直面する学生への援助: 万城ミサキ, 9, 569 - 571.

いま教育現場では・5 訪問看護: 岩井陽子, 9, 588 - 591.

教育学の立場から：鈴木俊作，9，591-592。
事象から理論化へと帰納的体験学習を試みた実習ゼミナールの1例：立山正子・ほか，10，613-617。
基礎看護教育における地域看護実習の目的と展開
実習目的と学習過程の諸問題からの一考察：石沢セイ子，12，765-772。

保健所実習に関するもの

いま教育現場では・5 訪問看護：岩井陽子，9，588-591。
教育学の立場から：鈴木俊作，9，591-592。

指導者・教員・教務に関するもの

看護教育指導者研修でいかに学ぶか 学習の認識とその考察：岡田幸子，1，44-48。
第2回四大学看護学研究会研究報告・2 熊本大学教育学部特別教科（看護）教育養成課程の10年を振り返って：山本重光，5，297-302。
私の教育実践レポート 臨床実習の展開とその考察（2）：横山トヨミ，7，405-416。
座談会 厚生省看護教員養成講習会に期待するもの：清水嘉与子・ほか，7，417-429。
看護教員養成講習会に参加して 教育は‘自ら学びとるものであること’の経験：内海恭江，7，430-433。
看護教員養成講習会に参加して 迷い苦しむなかでの自覚：間宮節子，7，433-435。
受講生を送り出す立場から より実り多きものに：谷岡圭子，7，436-438。
いま教育現場では・3 教師・講師・学生：大田千恵子，7，453-454。
教育学の立場から：鈴木俊作，7，455-457。
いま教育現場では・6 職場と家庭：大田千恵子，10，627-632。
専任教員の業務測定：中国・四国・九州地区保健婦教育研究会，12，758-764。

学生活動・寮・奨学金などに関するもの

看護教育における教育権と公教育：鈴木俊作，8，476-484。
看護学生 of 精神衛生管理について：松木光子・ほか，11，689-692。
いま教育現場では・8 思い出のなかの学生たち：伊藤幸子，12，773-776。
教育学の立場から：鈴木俊作，12，776-777。

卒後教育・現任教育に関するもの

専門看護をめざす卒後教育のスタート 神奈川県立看護教育大学校における専門看護教育 I. 小児看護課程：大谷昌美・ほか，3，173-177。
専門看護をめざす卒後教育のスタート 神奈川県立看護教育大学校における専門看護教育 II. 人工

透析看護課程：大谷昌美・ほか，4，250-255。
私の発言 卒後教育システム化の構想 模索と提案：上野フジエ，6，337-341。
専門看護をめざす卒後教育のスタート 神奈川県立看護教育大学校における専門看護教育 III. 専門看護学科 ICU・CCU 看護課程：加藤万利子・ほか，8，494-500。
私の発言 助産婦の卒後教育を考える：関根龍子，11，657-660。
専門看護をめざす卒後教育のスタート 神奈川県立看護教育大学校における専門看護教育 IV. 看護管理課程：大谷昌美・ほか，11，685-688。

研究論に関するもの

いま教育現場では・2 看護研究について：伊藤幸子，6，357-359。
教育学の立場から：鈴木俊作，6，360-361。

病院の看護婦養成史

東京同愛記念病院の看護婦養成について I. 東京同愛記念病院の設立：笠井ナミ子，5，319-325。
東京同愛記念病院の看護婦養成について II. 日本赤十字社病院での看護婦養成：笠井ナミ子，6，362-366。
東京同愛記念病院の看護婦養成について III. 東京同愛記念病院での看護婦養成：笠井ナミ子，8，511-516。
東京同愛記念病院の看護婦養成について IV. 米国防駐軍による接収：笠井ナミ子，11，675-678。

Book Review

癌の恐怖と闘う屈折した心理 児玉隆也著“ガン病棟の九十九日”：小林ゆみ子，1，63-64。
神話と伝説に自然概念をたどる 箱崎総一著“脳の博物誌”：鈴木美恵子，3，199-200。
病気への新しいアプローチ 豊倉康夫・ほか編“病気とはなにか——シンポジウム‘人間と病気’”：吉沢淑子，4，267-268。
看護への鋭い疑視と描写 野島良子著“人間看護学序説”：鈴木正子，6，398-400。
看護が学ぶべき‘食’の生理学 大木幸介著“人間栄養学のすすめ”：大橋優美子，8，531-532。
人類の未来に向かっての科学と社会 渡辺 格著“人間の終焉——分子生物学者のことあげ”：門脇ミツ子，11，719-720。
患者の生そのものにかかわってゆくことの大切さ 浜田 晋著“病める心の臨床——手づくりの医療と看護への接近”：杉崎淑子，12，783-784。

その他

グラフ 第16回 ICN 東京大会開かる：8，465-468。